

文化財科学への新展開

ー古代 DNA と分子レベルのアプローチ

2025年11月19日(水) 12:30~

オンライン
(zoom)開催

ご登録はこちら

参加費
無料Associated
Mission

・Mission4

循環材料・環境共生システム

・Mission5

高品位生存圏

Keyword

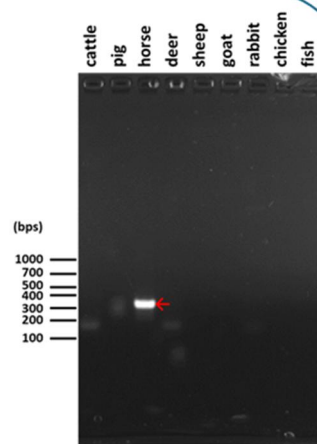
- ◇ aDNA
- ◇ DNA barcoding
- ◇ フルオラス溶媒
- ◇ MA-T®技術



押鐘 浩之

生存圏研究所
客員准教授

文化財は人類共通の財産であり、その保存修復はもとより、材質や製作技法の解明は次世代への円滑な継承に不可欠である。文化財は古代分子の情報カプセルといえるが、DNA 分析には対象物の破壊を伴うため適用は困難であった。一方、近年の異常気象や天災により、浸水被害やカビ害などの被災例が増えている。本セミナーでは、発表者が独自に開発した①古代 DNA(aDNA; ancient DNA)を介した「分子的」対話手法と、②非水系の洗浄・殺菌技術を紹介し、文化財科学の新たな展開と技術的課題の解決に向けた展望を論じる。

浮世絵 4
(江戸時代末期)

ウマ

定例オープンセミナーは、生存圏の様々な研究を相互に理解すべく、ランチタイムに気軽に行っている講演会です。* 不定期水曜日開催

https://www.rish.kyoto-u.ac.jp/open_seminar_2022/